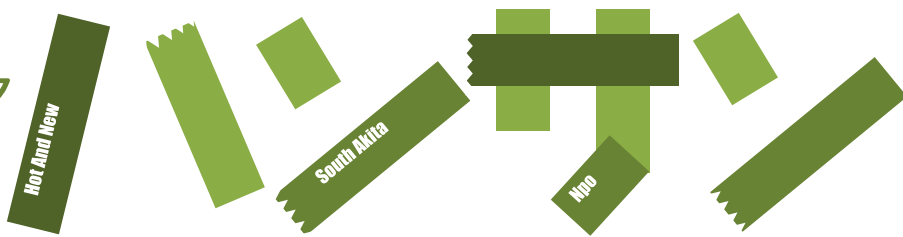


県南のNPOを情報でつなく、ささえる。

秋田県ボランティア NPO 活動ニュース

「県南版」



今月の表紙

「癒しフェア in ゆざわ」(癒しフェア実行委員会)

長引くコロナ禍でたくさんの方がストレスフルな状態にあります。そんな方々へ「ひと時でも癒しの場を」と、10月30日に昨年の横手に続いて湯沢市秋ノ宮で「癒しフェア in ゆざわ」が開催されました。タロットや手相などの占い、体の疲れを和らげるケア、かわいい雑貨の販売等が行なわれ、たくさんの来場客でにぎわいました。(八嶋英樹)

11

November 2021

Vol.163



《11月号目次》

- P2活動ウォッチング
あさひこども食堂(横手市)
- P3がんばる地域応援隊
大沢健康麻雀同好会(横手市雄物川町)
- P4秋田県南 NPO センターより
市民活動団体の「経営」について考えていこう
～県南地区「市民活動に関するアンケート」調査から～

▼宗教アベンジャーズ(癒しフェアより)



活動ウォッチング

THEME_ボランティア/NPO

「食を通じた地域づくりの中で、子ども達をサポート」

DATA_団体情報

あさひこども食堂(横手市)

代表/坂上善也さん

設立/2016年9月

会員/10人

活動日/第4日曜 11:30~(要確認)

連絡先/090-2981-6503(坂上)

あさひこども食堂は、横手市内の子育て支援に携わっている有志で、2016年に立ち上げられた団体です。食を通じた地域づくりの中で、子ども達へのサポートも行っています。場所の提供や食材、調理など地域の皆さんに支えられ活動中です。「こども食堂」と聞くと、子どものいる貧困家庭の支援と誤ってしまいがちですが、あさひこども食堂では多世代が参加できる場として、多くの方々の生きがいづくりや交流の場として利用されています。

コロナ禍では、食事提供を一時中止というような影響もありました。今年度からは、新たにお弁当の配布などの取り組みも行なっています。



◆◆「みんなのこども食堂」開催◆◆

2021年10月24日(日)横手市旭ふれあい館にて「みんなのこども食堂」が開催されました。



この日のメインは芋の子汁とおにぎりでした。地元の農家さんから芋の子、トマト、新米などをご提供いただきました。



《食材、資器材、寄付金などを募集しています》

【食 材】 野菜、調味料、肉、お菓子ほか

【資器材】 未使用の包丁、フォーク、スプーン、調理器具など

【寄付金】 活動に賛同し援助して下さる方

月に1~2回の活動の中で使用します。

※賞味期限のある食材については、期限1か月前まで

野菜、肉などは開催日近くにいただけるもの

資器材については未使用品に限ります。(必要なもの限定)

寄付金は届けていただくか、銀行振込、また何うことも可能です。代表の坂上さんまでご一報ください。

(物によってはお受けできない場合がありますのでご了承ください)

子どもは無料、大人は協力金 200 円以上(任意)。

みんなのこども食堂はお気軽にどなたでもお食事できます。



がんばる地域応援隊

Vol.7 大沢健康麻雀同好会(横手市雄物川町)

「健康麻雀を通じて仲間づくり、健康づくり、支えあい」



○大沢健康麻雀同好会のお約束

- ・(お金を)賭けない、(お酒を)飲まない、(たばこを)吸わない。
- ・相手を批判するような言動を慎み、人を思いやる豊かな心で麻雀をする。
- ・初心者もおります。勝負にこだわらず和やかに楽しむこと。



「大沢健康麻雀同好会」
代表 中川 隆一さん

大沢地区は、国道107号にそった約240世帯の集落です。

雄物川地域協議体の仲間と「この地域で仲間づくりや健康づくりにつながる活動ができないだろうか」と考えたとき、「ねんりんピック」の競技として健康麻雀が行われていることを知りました。会社を退職すると、女性はお互いの家に行ってお茶を飲みながら世間話が出来ますが、男性は、なかなかそういったことができないのが実情です。男女問わず65歳以上の住民に呼びかけて平成29年に健康麻雀の同好会を立ち上げました。

「麻雀イコール賭博」という考え方がいまだに根強いのですが、仲間との語らいや健康的なゲームの面白さを楽しむという健康麻雀の趣を理解してもらうよう努力しています。また、「閉じこもり」「高齢者うつ」の予防も目的としています。最近では初心者もある程度慣れてきましたので、個人の点数を記録し、新年会で表彰も行なっております。実力の個人差については「ユーモア賞」や、「スマイル賞」といった賞を設けて工夫をしています。



「大沢健康麻雀同好会」について

- 設立：平成29年12月1日
- 会員：30名
男性 22人 女性 8人 平均 76歳
- 活動拠点：横手市 大沢地区交流センター
横手市雄物川町大沢字大沢 182
- 活動日：毎週火曜、木曜日(13時～17時)
- 年会費 1,000円(入会金 500円)

この地区では、健康麻雀をきっかけに、仲間づくりや、健康づくりだけでなく、冬の除排雪活動で支えあいが生まれたり、交通手段のない方たちのための移動方法など、地域の困りごとについて考えるきっかけにもつながったそうです。

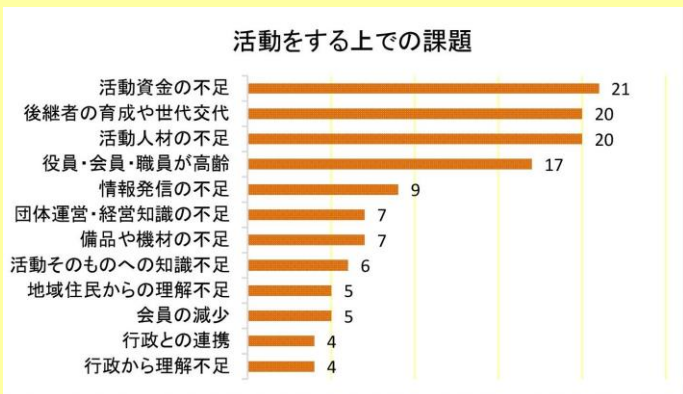
(編集 八嶋英樹)

市民活動団体の「経営」について考えていこう ～県南地区「市民活動に関するアンケート」調査から～

昨夏、秋田県は県南・県北地区の市民活動団体を対象に「市民活動に関するアンケート」を実施しました。この調査から見てきたことについて、ご報告させていただきます。(配布件数：97件(団体)、回収件数：44件(団体)・・・内訳：NPO法人30団体・任意団体14団体、回収率45%) (奥ちひろ)

■ 「資金不足」「活動を担う人材不足」「後継者の育成や世代交代」が課題

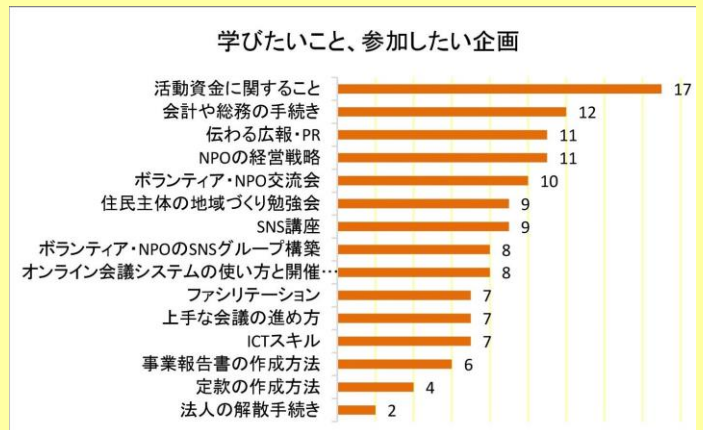
「活動する上での課題がある」と答えた32団体のうち、とりわけ多かった回答は「活動資金不足(21団体)」「活動を担う人材の不足(20団体)」「後継者の育成や世代交代ができていない(20団体)」「役員・会員・職員が高齢になった(17団体)」で、多くが「人材」に関する課題であることが分かりました。



また、一番回答の多かった「資金不足(21団体)」を合わせると、「情報発信ができていない(9団体)」「備品や機材の不足(7団体)」「団体運営や経営に関する知識が不足(7団体)」「活動そのものに必要な知識

の不足(6団体)」と、団体や活動を運営していく上での知識やノウハウ、資源が不足していると考えられます。

これに対して、「学びたいこと、参加したい企画」について聞いたところ、上位となったのは、団体運営の中でも「活動資金に関すること(17団体)」「会計や総務の手続き(12団体)」「NPOの経営戦略(11団体)」といった経営知識やノウハウでした。また、人材不足への対応として、「伝わる広報・PR(11団体)」のように活動への理解者や協力者を募っていく方法を求めている団体も少なくないことが分かりました。



■ 市民活動団体も、経営課題に向き合い、次の経営戦略を作っていこう

この結果をふまえ、11月14日(日)13時より、「市民活動団体のモデルチェンジを考える勉強会」を開催します。自団体が目指すことを指針に、地域の環境と自団体の環境の変化を見つめ、次のステップを考えていきませんか。サポセンまでお問合せください。

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2021年11月10日発行
11月号 VOL.163

発行：秋田県あきた未来創造部地域づくり推進課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター(南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00
土・日 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail:ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/



編集スタッフの
つぶやき

VOL.05

コーディネーター
奥ちひろ

新型コロナの新規感染者が0の日が続き、どことなく、心穏やかに過ごせるこの頃になりました。鳥海山には雪が積もり、今のうちに、できる範囲で短い秋を楽しまなくちゃと思っています。とは言ってもなかなか時間が取れず、ふと見上げたその先にある木々や山の紅葉を愛で楽しんでいます。

昨年は12月頃から感染が再拡大していきました。コロナは寒さに強いウイルスです。寒くなり、すっかり窓も扉も閉めきってしまいがちですが、定期的な喚起など、基本的な対策は継続しながらコロナ禍を乗り越えていきたいですね。